

最近ノ情勢

總論

一九三一年、滿洲ニ起ツタ軍事的騷擾ハ日本政府ノ財政方策ヲ轉換サセタ最初ノモノデアアル。日本が大連へ進出シタタメニモタラサレタ危急状態ニ適應スルヨウナ變革ガチサレネバチラナカツタ。滿洲ニ新シク生レタ國家ハ財政的援助ヲ必要トシ滿洲防衛ノ全責任ハ日本ニアツタノデアアル。滿洲ノ天然資源ヲ日本重工業原料ノ擴大シツツアル需要ヲ充タスタメニ急速ニ開發スル必要ガアツタ。コノタメ、又其ノ他ノ事業ノタメニハ、多額ノ資本ノ支出ガ必要デアツタ。日本ノ財政運用ハ急ニ擴張サレ、ソレハ殆ンド全部公債ヲモツテ辯ゼラレタノデアアル。「濱口」内閣當時井上茂相ノ固持シタ「デフレーション」政策トハハツキリ手ヲ切ツテシマツタ。シカシコノ切迫シタ經濟ト抵諒ナ物價ノ時代ハ、次ノイハユル「準戰時體制」下更ニ中國ニ對スル無宣戰ノ戰爭ニヨク惹起サレタ正戰時體制下ニオケル、生産擴充時代ノ基礎ヲ築イイタ。コノ増大スル財政要求ハ、大部分海外貿易活動ヲ擴大スルコト

ニヨツテマカナハレタ。

第二ノ轉換點

日本ノ財政方策ニオケル第二ノ轉換點ノ認めラレル時代ノ最モ顯著ナ
境界標トモナルベキモノハ、今ハ歴史的事件トナツタ一九三〇年ノ「
二、二六事件」デアアル。軍部ノ勢力臺頭ト共ニ國防ガ強調セラレルヨ
ウニナツタ、馬場藏相ノ政策ニヨリ増大スル國庫ノ支出ハ一部ハ増税又
ハ一部ハ國債ヲモツテコレニ當テタ。シカシナガラ彼ガ廣範圍ニワタ
リ行ハントシタ經濟計畫ハ評判ガ悪カッタ。彼ニ次イダ結城藏相ハ彼
ノ政策ヲ主トシテ「生産能力ノ擴大」ニ向ケタ。

第三ノ轉換點

第三ノ轉換點ハ中國ニ對スル無宣戰々争ノ勃發シタ一九三七年七月以
降ニ認めラレレ。日本ガ余程ナクサレタ戰時體制ノ下デ議會ガ開カレ
増税ト國債増額ヲ含ム財政案ヲ通過サセタ一九三七年七月カラ一九三
八年一月迄ノ支出全額トシテ二五億圓ガ可決サレタ。日本ノ戰時財政

方針ガ、今左ノ三原則ノ上ニ樹立サレタ。即チ「生産力ノ擴充」「國際支拂ノ均等」及ビ「物資ノ需給調整」デアル。

第四ノ轉換點

第四且ツ最後ノ轉換點ハ一九三八年一月十六日、即チ日本政府ガ蔣介石ヲハソノ政府トノ交渉ヲ打切ルト宣言シタ時ニヤツテ來タ。平易ナ語デイヘバコノ宣言ハ二ツノ事ヲ意味シタ。第一ニ、日本ハ中國々民黨政府トノ外交關係ヲ打切ツタコト、第二ハ、日本ハ中國ガ挑ンデタレバ如何ナル長期戦ニモ對處スル準備ヲスルコトデアツタ。コノヨウナ戰時體制下ニ政府ハソノ財政方策ヲ再檢討シ再計畫セネバナラナカツタ。一九三八年一月ニ開カレタ帝國議會ハ國家財政會社經理、外國貿易、殖産業及勞動等ノ分野ニオイテ徹底的大變化ヲモタラス多クノ法案ヲ通過サセタノデアアル。

通貨膨脹ノ豫防

次ニ、通貨膨脹ノ進捗豫防ニ重點カオカレテキル。通貨膨脹ハ過大ナ公債發行ノ結果トシテハ、可能性ガ豫想セラレテキルシ、或ル分野ニ

オイテハ不可避デアルトサヘ考ヘラレテキル。ヨノ目的デトラレタ
第一ノ手段ノ一ハ貯蓄奨励デアル。コノ事ハ議會閉會後聞モナク一
九三八年四月? (不明) 目ニ賀屋元藏相ガ貯蓄、銀行會議デ明白ニ
語ツテキル。彼ハ毎年金融機關ヲ通ジテ行ハレル貯蓄ハ凡ソニ五億程
ニ上ゲラルベキデアルト述べタ。彼ハ國民所得ノ年額大體一五〇億
ト見積ツタ。國民一般ノ貯全モ又天勸スベク、ソノ爲ニ百万圓ノ經費
ヲ豫算ニ入レテ特別ナ一局ガ設置サレタ。

消 費 經 濟

通貨ノ甚ダシイ膨張ヲ避ケルタメニ政府ノ方針ハ今更トシテ嚴格ナ
消費經濟ノ方向ニ向ツタ。輸入ノ制限ノタメ、今綿製品、ゴム、石油
等ノ場合ニ見エルヨウニ、國內ニオケル消費ガ統制サレルヨウニナツ
タ。戰時產業以外ヘノ投資ハ、一九三八年一月以降有效ノ改正資本統
制法ニヨリ一切抑止サレタ。資本ノ支拂、及社債發行モ嚴重ナ統制ノ
下ニ置カレタ。同時ニ五十万圓以上ノ資本ヲ有スル會社ハ悉ク一九三
八年二月中旬迄ニ、一九三八年度ノ融資計畫ヲ報告セネバナラナカツ

タ。生命保險會社ニヨル積立資本ノ運用ハ一九三八年一月十一日發布
サレタ勅令ニヨリ商工、大藏及厚生ノ三大臣ノ合同管理ノ下ニオカレ
タ。ヨノ組織ハ實際上保險會社ニ國債ヲ購入スル義務ヲ負ハセル事ニ
ナツタ。